平成３０年度第１回教育小部会議事録

日　時：平成３０年８月７日（火）10:00～12:00
場　所：北海道庁本庁舎地下１階総合政策部会議室
出席者：横井小部会長、安宅委員、上原委員、
大矢委員、川前委員、辻委員、二井委員、
牧野委員、三上委員、光本委員
事務局：靏原室長、中谷主幹、伊藤主査、山本主事

１　開　会
２　小部会長挨拶
３　議　事
（１）　道史編さん体制と刊行計画
（２）　教育小部会の編さんスケジュール
（３）　教育分野構成案と資料編のスタイル
（４）　編さん作業の進め方について
（５）　今後の予定

４　閉　会

１　開　会

２　小部会長挨拶

小部会長からの挨拶と各委員及び事務局からの自己紹介。

３　議　事

（１）道史編さん体制と刊行計画

横井小部会長から資料①をもとに編さん組織の体制、資料②をもとに全体の刊行計画について説明。

（２）教育小部会の編さんスケジュール

横井小部会長から、小部会の編さんスケジュール（小部会長私案）を説明。

・来年３月末を目途に、各自担当分野の仮の構成案を作成。

・最後に分量を調整する作業になるので、掲載しない可能性のある資料もどんどん出してほしい。

・資料編の入稿後は通史編の作業に入る。２０２４年６月以降に入稿・校正、２０２５年後半に通史編を刊行する予定。

・一般的な自治体史と同様に資料編・通史編の順に刊行されることになっているが、通史編の執筆を念頭に置きながら、資料編の作業を行う。

（３）教育分野構成案と資料編のスタイル

横井小部会長から資料④・資料⑤・資料⑥をもとに説明。

・企画編集部会で山口県史を参考にすることになった。同史の場合、全体で約 900 頁、約１割が資料の解説、約９割が資料の掲載に充てられている。

・道史の資料編は、教育と社会・文化と合わせて１巻で、分量の割当はまだ決まっていないが、仮に４割が教育となった場合、全体で 360 頁程度。小部会の人数で割ると１人当たり 30 頁程度。

・資料１件ごとに解説を加えている県史もあるが、山口県史では、項目ごとにまとめた解説が先にあり、その後に資料が並ぶ。

【辻 委 員】解説を時代ごとに横断的に執筆する形態も含めて山口県史をモデルにするということか。

【横井小部会長】時代を分けて、その時代ごとに皆さんが少しずつ書いたものをつなぎ合わせていく形になると想定されるが、検討する余地はある。

【辻 委 員】社会教育の歴史を数頁で書き上げるのは厳しい。

【二井委員】分量は増やせる余地があるのか。また、時期区分や抽出基準なども決められたものがあるのか。

【横井小部会長】分量については、これ以上の増やすことは難しい。限られた頁の中に各自ピックアップしたものを可能な限り入れていくことになる。抽出の基準はなく、各委員の判断により重要と考えられるものを出し、それが収まるよ

うに調整することになる。章立てを時期区分にするか分野ごとにするかは未定だが、時期区分を主とするなら、その区分に応じたものを各々出してつなぎ合わせるしかない。形態は、社会・文化小部会と調整する必要がある。

【辻 委 員】道史としての読みやすさや、全体のイメージを考えると、時代の特徴などをコメントした方が読みやすいものになる。

【安宅委員】通史の執筆を念頭に置きながらということになると、結果的に解説の部分と通史の部分が似た書きぶりになり重複してしまうのではないか。

【横井小部会長】資料編の解説は、短い文章で資料を紹介することが基本なので、叙述の重複はあまり心配していない。

【光本委員】通史編があることを考えると、資料編は流れよりも特定の資料に焦点を当てて解題的に書いた方が作業し易くおもしろいものができる。

【上原委員】山口県史に掲載された資料を見ていると、一定の歴史観に基づいて資料を探して集めてきたといった印象。各地にある断片的な資料をつなぎ合わせて新しい表を作って資料にする方が作業としては有意義と考える。例えば、工業高校設立の経緯を類型ごとに整理するのもおもしろい。

【横井小部会長】それはむしろ、通史編での作業になるのではないか。作業的には、その分野の歴史を理解する上での重要資料をピックアップすることをまず行っていただきたい。なお、基本的に時期区分で考え、縦割りで作業してもらい、後でそれをまとめるという方向でいかがか。

【辻 委 員】時期区分のスタイルで行くと、各々でどの部分にどの資料が並ぶのか、といったイメージを出してみるということか。

【横井小部会長】分量の少ない分野もあるので、ある程度まとめた方がよいと思う。

【三上委員】小学校と中学校が線引きされているが、戦後で言えば、義務教育と高等教育に分けた方が自然だと思う。

【横井小部会長】この構成案は担当者別に線引きしているので、学校教育の分野が分割された形になっている。そこも含めて構成案を提案いただきたい。

【川前委員】中項目の担当割について、自分が担当する「へき地教育」は義務教育の部分だけでよいか。

【横井小部会長】基本的にはそのように考えている。高校は三上先生にお願いするが、小規模校とか農村部過疎地域の高校等があり、そこまで分けるのはやりにくいと思う。

【川前委員】学校存続とか地域づくりとかの部分では、高校が町にあるかどうかは大きいと思うが、学校種が決まっていれば義務教育という守備範囲でやらせていただく。

【横井小部会長】アイヌに関しては全分野に関わることから、第一人者の小川さん（北海道博物館副館長）に一括して任せることになっているが、こちらで重要と思われるアイヌ関係の資料が出てきた場合は、重複するかもしれないが、後で調整するので出してもらって構わない。

【安宅委員】高等専門学校については、高等教育としての位置づけであるが、職業

教育の色合が強く、私が切り取って担当すると、他の先生がやりにくいのではないか。

【大矢委員】ある程度独立した担当割りになっているので、これはこれでよいのではないか。

【三上委員】小学校と中学校に線が引かれているが、設置者が同じになるので、ひとつにするべきだと思う。

【大矢委員】三上先生に助けてもらいながら自分がやることにする。

【横井小部会長】高校、私立学校は三上先生が担当する仕分けでいきたい。

【牧野委員】放課後児童デイサービスは厚生労働省の管轄になるので、稲井先生のところになるのか。

【横井小部会長】制度ができて１０年も経っていないので、削ることになる。狭義の学校教育からは、はみ出す部分での障がいのある子どもの居場所ということで牧野先生に視野に入れていただきたい。

【牧野委員】北海道の成果としては、乳幼児、学校に入る前を手厚くしようという制度ができたので、こちらの方は誇らしげに書けるか。

【横井小部会長】やはり放課後児童デイサービスは削りましょう。

【辻　委　員】占領下の教育改革、教育行財政、教育計画には、社会教育も入るという理解でよろしいか。

【横井小部会長】社会教育に係る計画であれば、辻先生の方でやっていただきたい。

（４）編さん作業の進め方について

横井小部会長から、資料⑦、資料⑧、資料⑨をもとに説明。

【上原委員】自分は道内の学校を調査に回ることになると思うが、交通が不便なところが多いので、調査にタクシーを使用したいと考えているが、その場合は領収書をもらうなどすればよいか。

【事務局】タクシー代としては支給できないと思うが、距離が遠ければ、現地までの公共交通機関の料金に換算して旅費として支給することは可能。

【横井小部会長】事故の問題が懸念されるが、自家用車を使った場合も公共交通機関の計算になるのか。

【事務局】調べておく。

（５）今後の予定について

横井小部会長から資料⑩をもとに今後のスケジュールについて説明。

・各自資料調査を進めていただき、進捗の管理は、個別にメールでやり取りさせていただく。

　委員のと項目の調整で各自適宜集まるといったイメージ。

・来年２月までに構成案を作っていただき、３月に部会の開催を予定。その間、調整が必要になった場合は、開催を検討したい。

（６）その他

【安宅委員】山口県史をみると公文書、公的な機関が発行する資料が多く見受けられるが、新聞や民間の資料である程度信憑性の高い資料を載せても問題ないということでよろしいか。

【横井小部会長】安宅先生は民間の取組がいっぱい入っているので、例えば、北海道に初めてフリースクールができたことを扱うなら、その時の新聞記事を入れる。あるいは、フリースクールにある最初の頃の資料を何か載せるといったことが考えられる。

４　閉　会

（了）